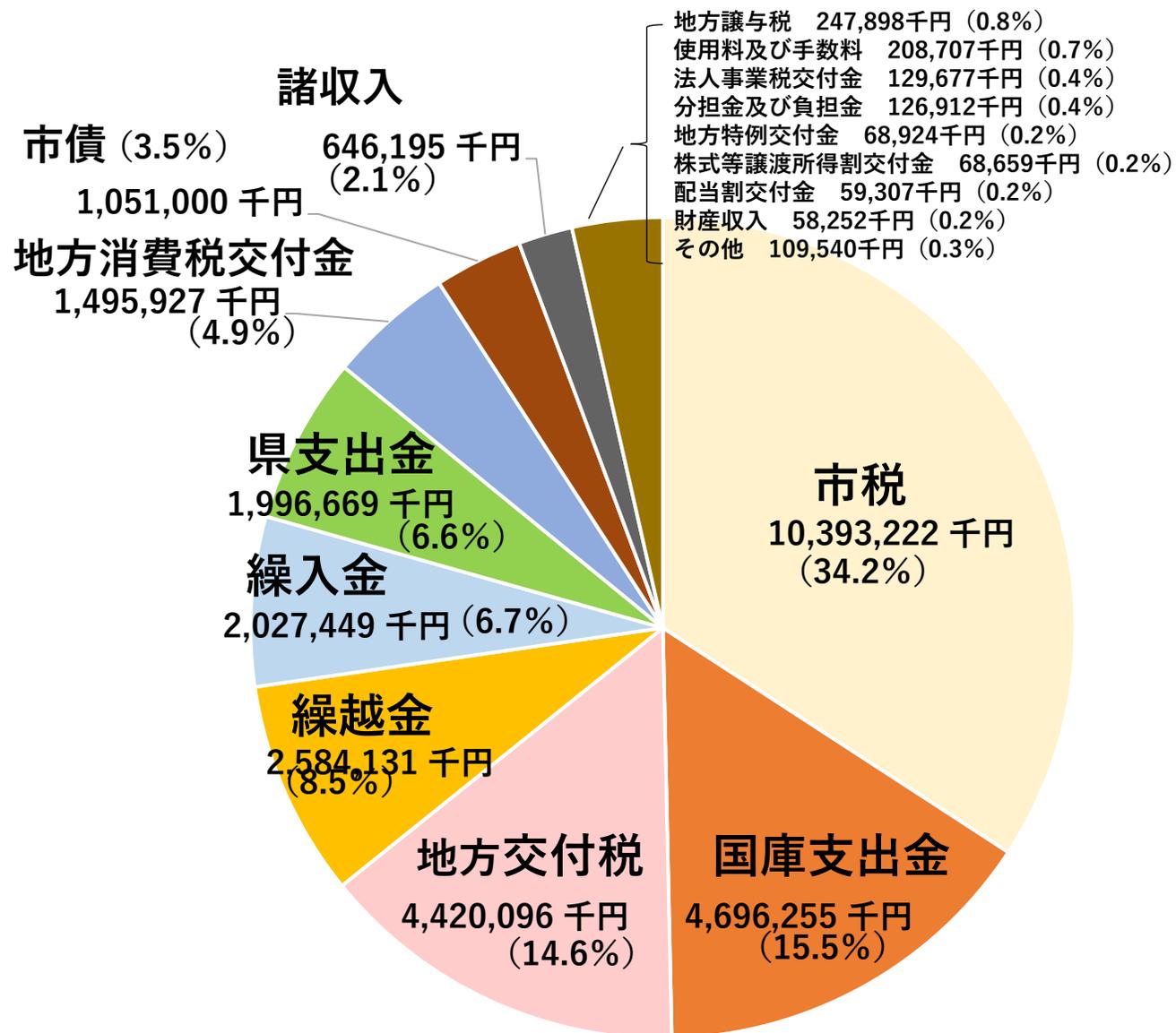


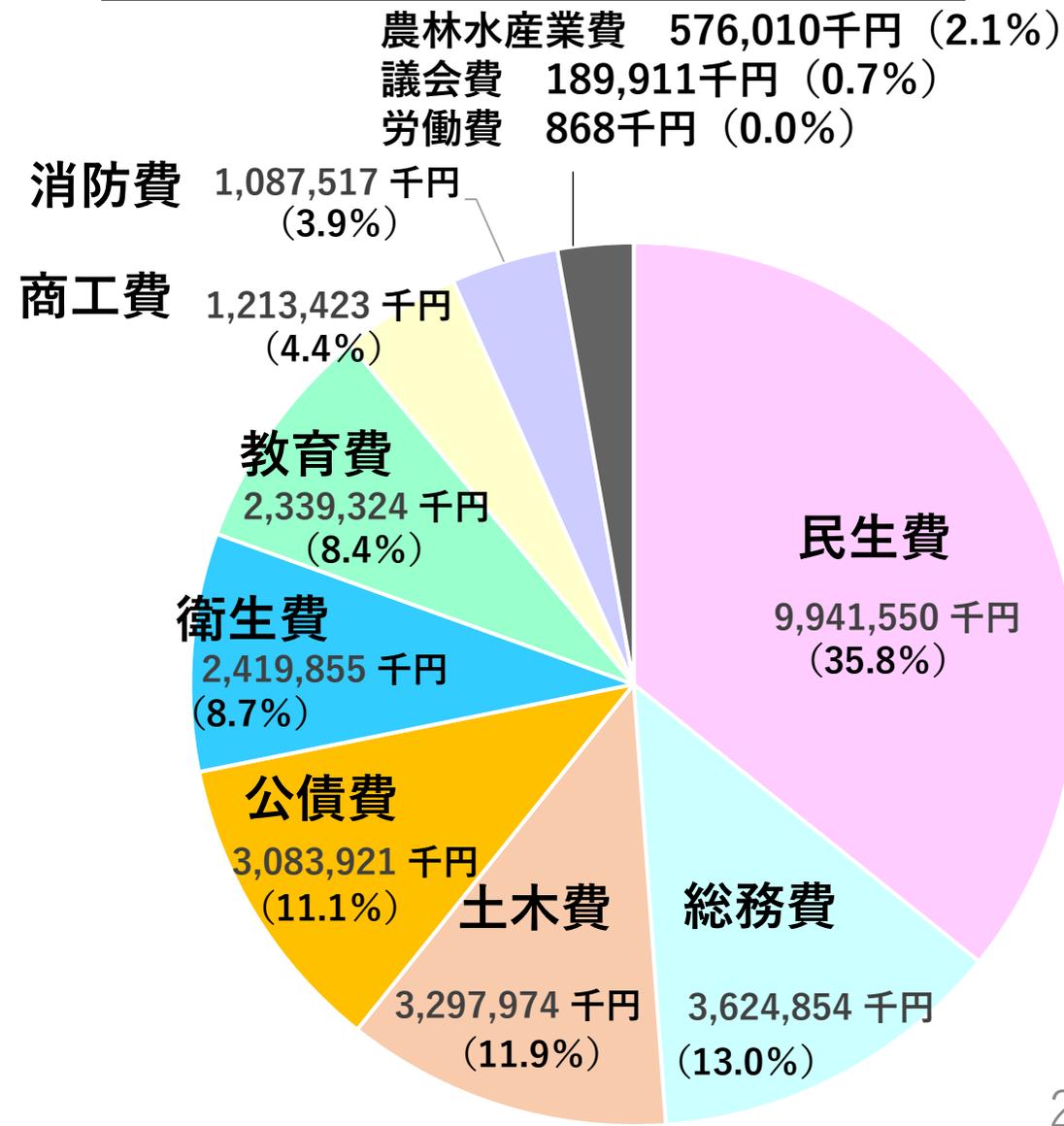
# 下野市の財政状況

# 令和5年度下野市予算決算状況

**歳入決算額 30,388,820千円**

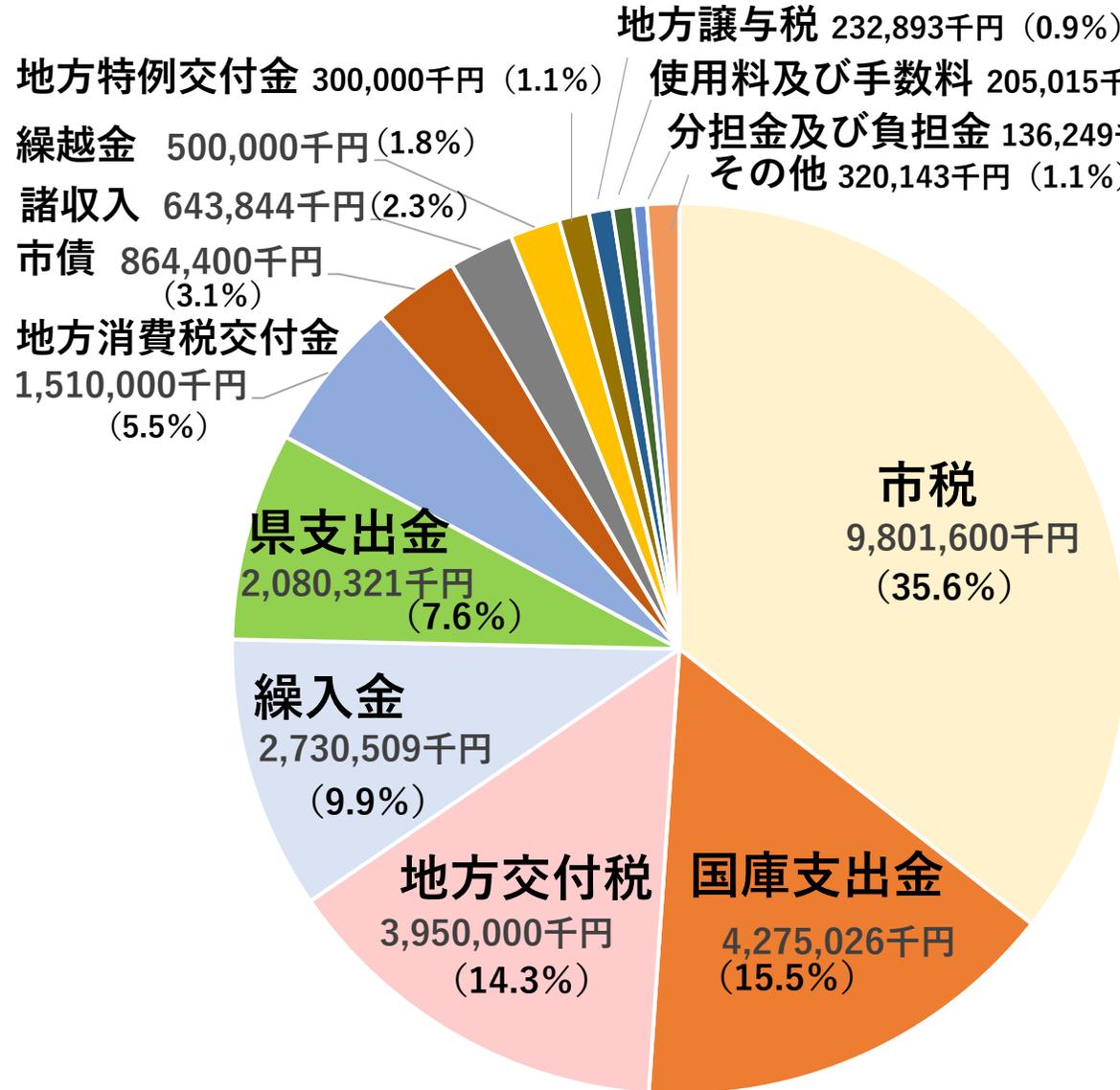


**歳出決算額 27,775,207千円**

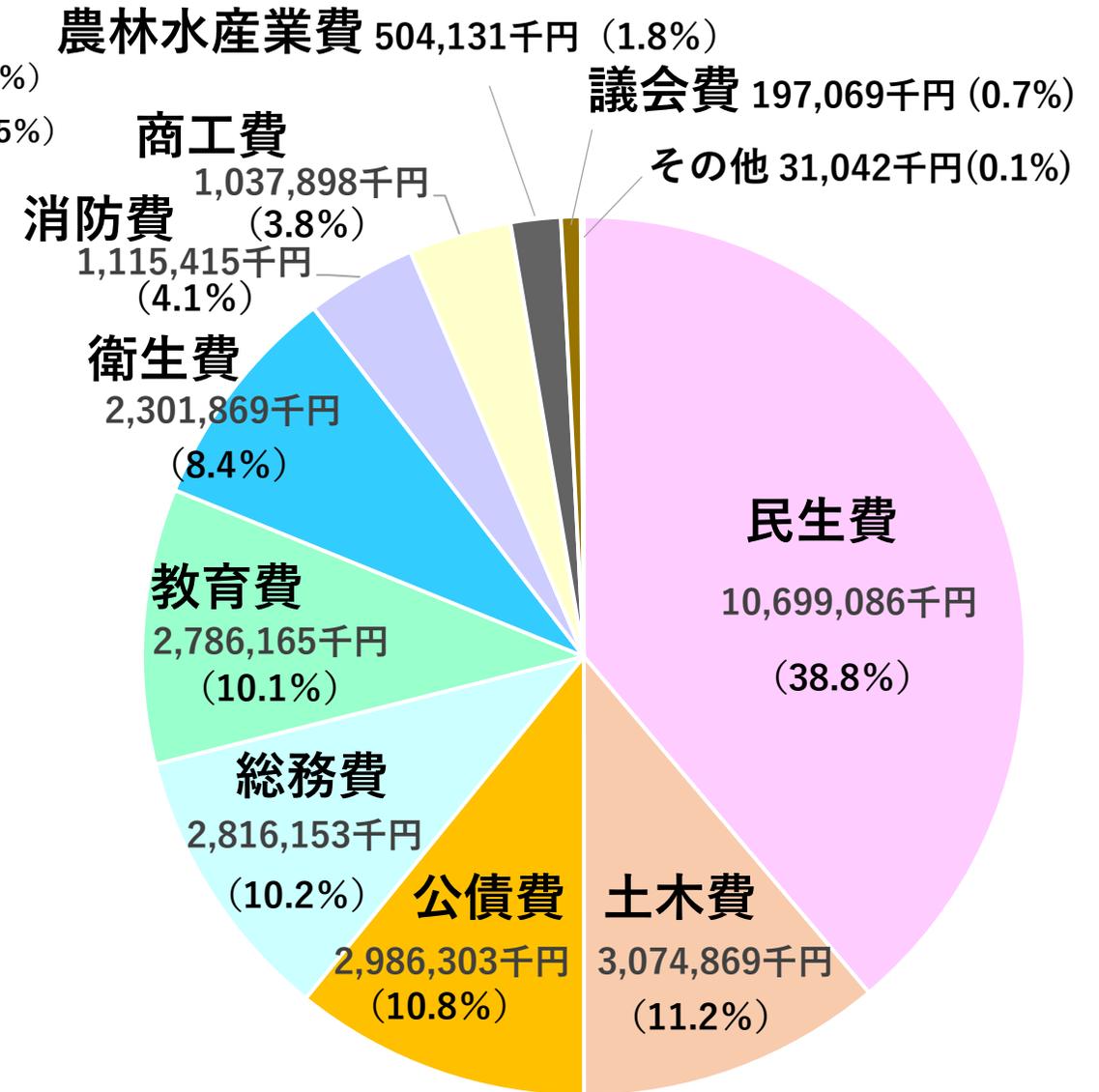


# 令和6年度下野市予算

**歳入予算額 27,550,000千円**



**歳出予算額 27,550,000千円**

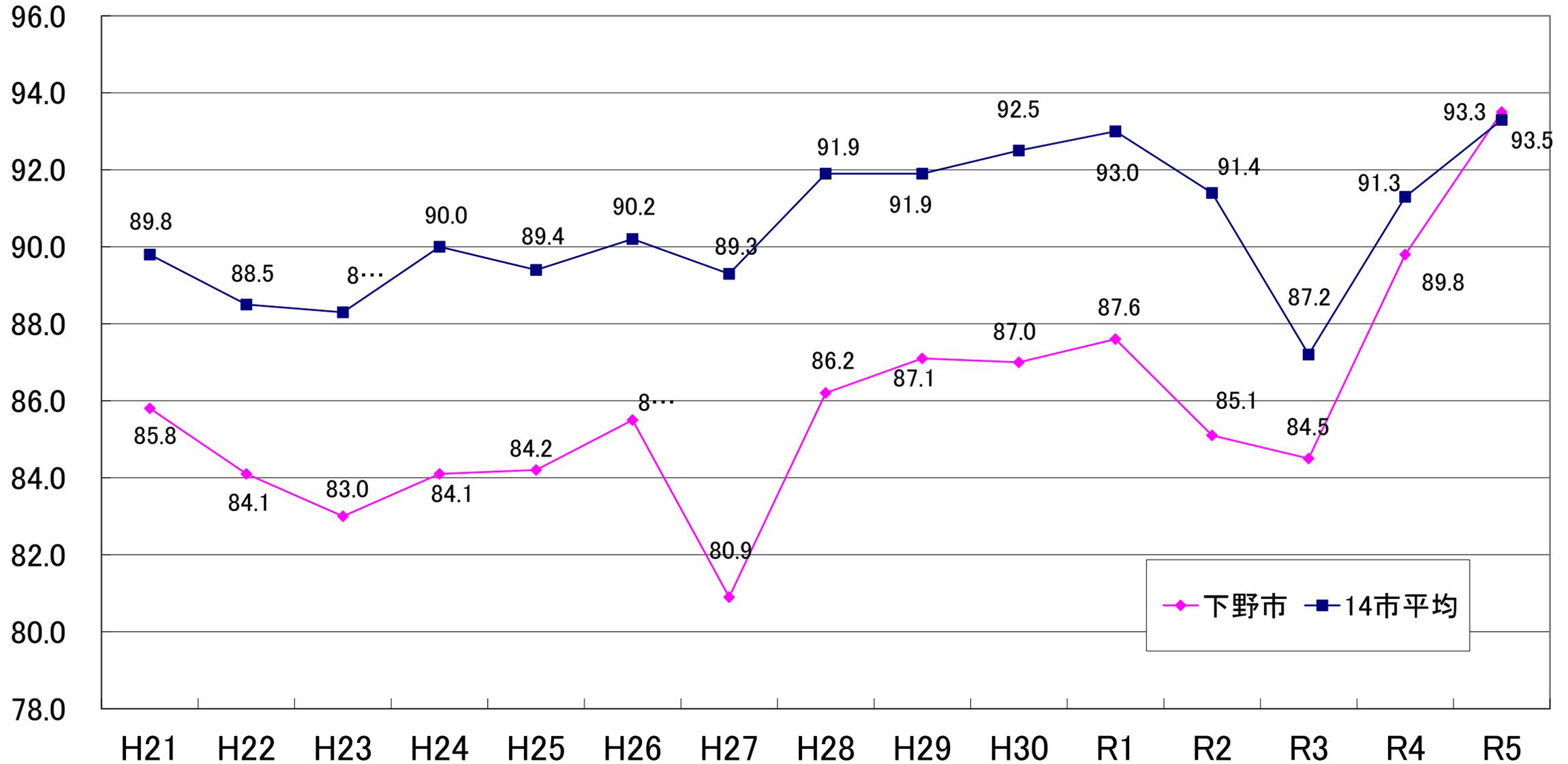


- ①財政力指数            基準財政収入額を基準財政需要額で除した値の過去3年間の平均値  
→指数が高いほど財源に余裕がある
- ②自主財源比率        自主財源（税、分担金、負担金、使用料 等）が収入全体に占める割合  
→割合が大きければ、行政の自主性や安定性が確保される
- ③義務的経費比率      歳出総額に占める義務的経費（人件費、扶助費、公債費）の割合  
→割合が大きいと、歳出面での裁量の余地が制約を受ける
- ④投資的経費比率      歳出総額に占める投資的経費（社会資本整備等）の割合
- ⑤経常収支比率        義務的性格の経費に対する地方税等の一般財源の割合  
→割合が高いほど財政構造の硬直化が進んでいる
- ⑥実質公債費比率      一般会計等が負担する元利償還金等の標準財政規模に対する割合  
→自治体の資金繰りの程度を示す 25%を超えると健全化が求められる
- ⑦将来負担比率        一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する割合  
→自治体が現在抱えている負債の大きさを表す

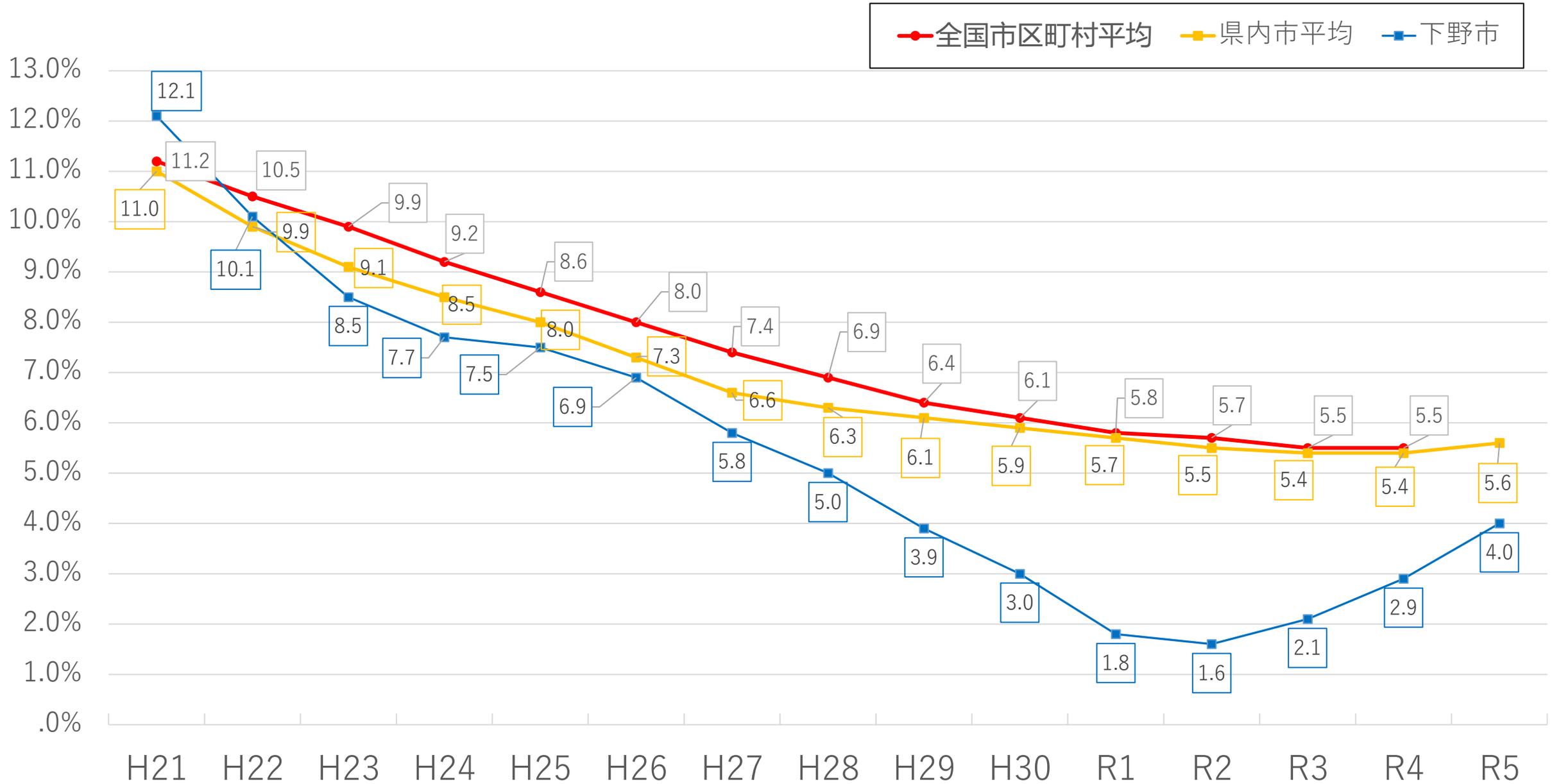
# 下野市における各指標の現状と県内他市との比較

指数・比率【数値の判断】		下野市	県内14市平均	下野市の順位
財政力指数	【高いほど良い】	0.69	0.71	7位/14位
自主財源比率	【高いほど良い】	52.8	49.2	6位/14位
義務的経費比率	【低いほど良い】	45.8	46.2	7位/14位
投資的経費比率	【どちらともいえない】	8.9	11.2	8位/14位 ※順位は数値が高い順
経常収支比率	【低いほど良い】	93.5	93.3	8位/14位
実質公債費比率	【低いほど良い】	4.0	5.6	5位/14位
将来負担比率	【低いほど良い】	▲ 34.7	▲ 13.6	7位/14位

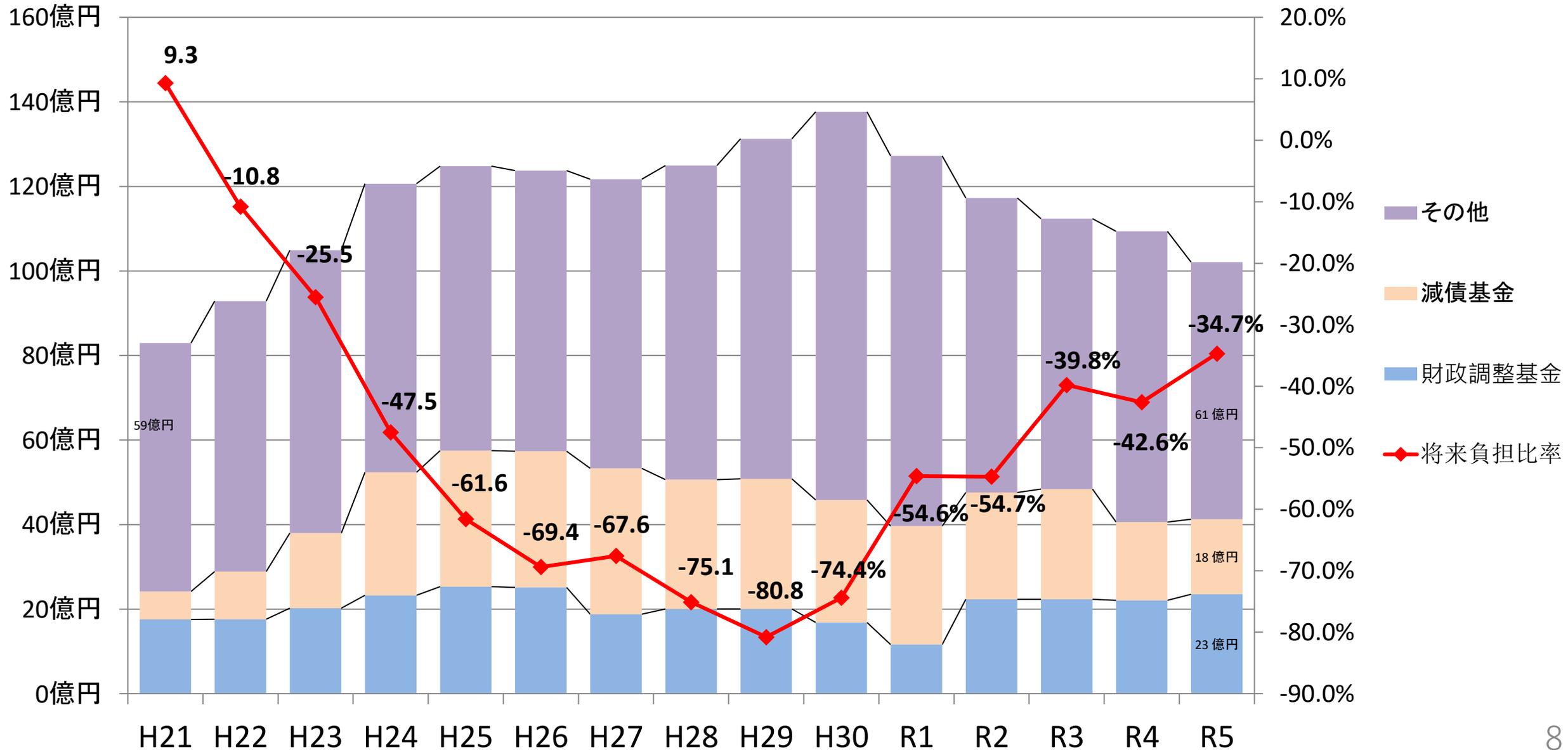
# 経常収支比率の推移



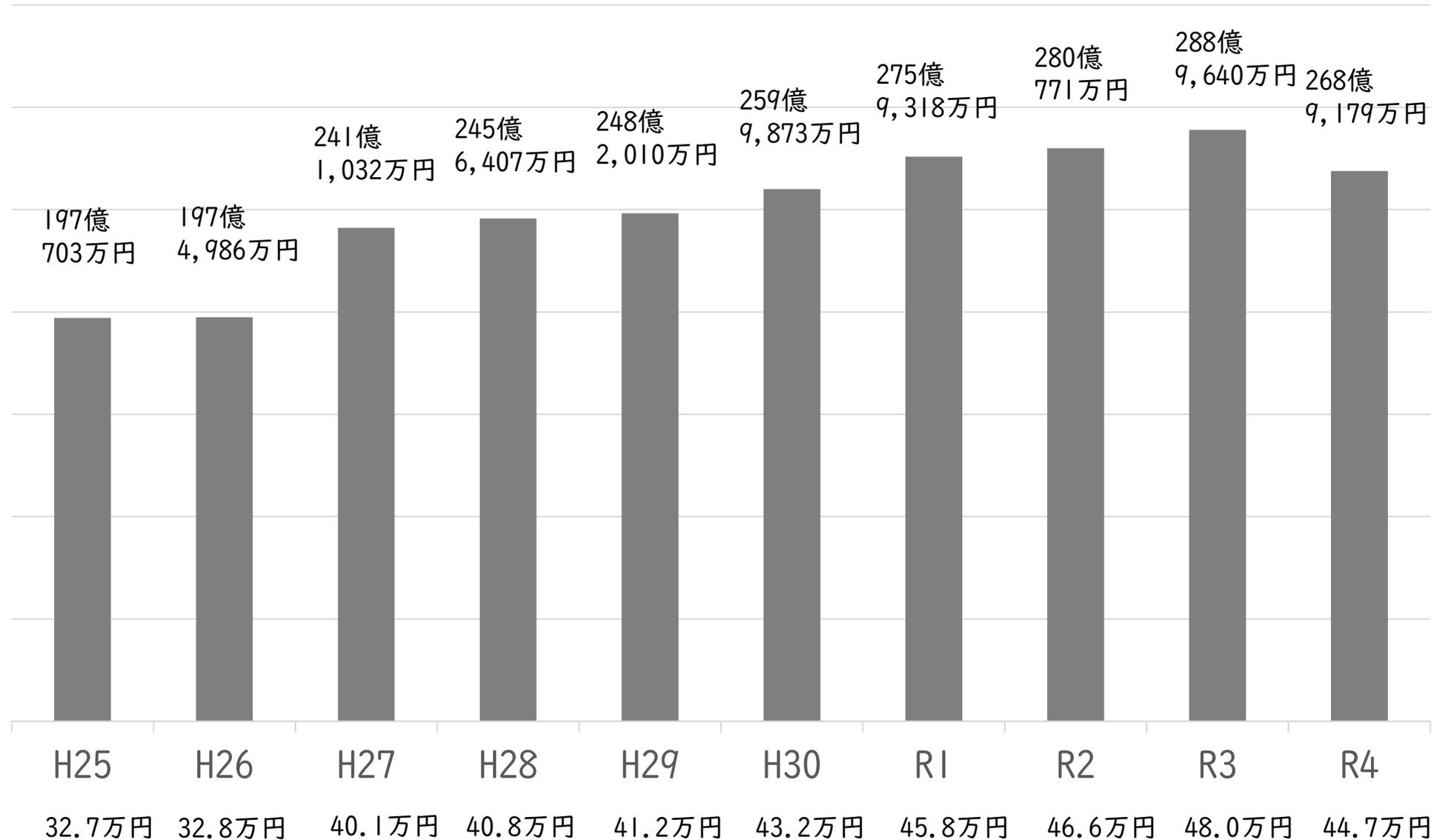
# 実質公債費率の推移



# 基金残高と将来負担比率の推移



# 起債（地方債）残高の推移



# 地方債の役割

## ①財政支出と財政収入の年度間調整

建設事業など単年度に多額の財源を必要とする事業について、地方債を発行して必要な資金を調達することで、事業の円滑な執行と、財政負担の平準化が図れます。

## ②世代間の負担の公平化

道路や建物等の社会資本は、長期間にわたり利用されるものですので、現世代のみでなく、将来便益を受けることとなる後世代との間で負担を分かつことを可能としています。

## ※建設国債と赤字国債の違い

地方債は建設国債同様の仕組  
地方自治体は赤字起債はできない

